

編 集 後 記

今年の小児循環器学会学術集会において、委員会企画シンポジウムとして『小児循環器学会雑誌の充実に向けて』というセッションが開催されました。私は「邦文雑誌編集委員会の取り組み—これまでの経緯と今後の課題—」という題で発表し、準備のために学会および学会雑誌の歴史を調べてみたところ、改めて歴史の長さに驚きました。第一回小児循環器学会研究会総会は1965年5月17日に開催されました。私が生まれる前の年のことです。学会雑誌の定期発行は1985年に開始されましたが、これは私が医師になるずっと以前のことです。発表スライドを作成しながら、このように歴史のある学会雑誌の編集に関わることの責任の重さを改めて認識しました。私が編集委員に加わってからも様々な変化や改革がありました。2017年に英文誌が設立され、2021年には編集委員会が英文誌と邦文誌に独立しました。これらの大きな変革に編集委員一丸となり取り組んだことは、大変勉強になりました。ほかにも多岐にわたる小児循環器学会の活動に対応するため、各専門分野のAssociate Editor(AE)候補者の整備や、同時期に行われた査読基準のスコア化の効果により、より迅速で精度の高いAE選出と査読作業が可能となりました。さらに学会員が多彩な分野を系統的に学べるようにするために、2013年以降だけでも9つの特集が企画され、現在も〈スペシャリストシリーズ「各専門分野をより深く学ぶ」〉が進行中です。2016～2021年に企画された「ケースチャレンジ」からは、開始から中止に至る経緯を見ることにより、企画の表から裏まで学びました。

このように、編集委員会で学んだことは膨大にあります。セッションの発表作成を通じて、学んだことを活かして今後も学会の活動に貢献できればと、改めて考える大変良い機会になりました。

(高橋 健)